

タイトル：第6回 オスマン文書セミナー

日時：2013年12月22日（日）14:00-18:00 / 2013年12月23日（月・祝）10:30-18:00

場所：AA 研大会議室（303）

仲本 響（九州大学人文科学府歴史空間論専攻 修士課程）

第6回オスマン文書セミナーは、2013年12月22日（日）と23日（月・祝）に東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所で行われた。今年度が初の参加となる学生の出席も目立ち、今後のオスマン史研究のさらなる発展が期待されることとなった。

初日は、秋葉淳講師によってシャリーア法廷台帳史料の例題解説がなされたのち、講読に移った。ここでは、フルウ離婚に関する史料（非ムスリムの離婚）、タラーク離婚に関する史料（夫による性的中傷が要件となった離婚）を持ち回りで読んだ。

2日目の前半は、秋葉淳講師によって上申文書に関する解説が行われた後、史料講読に移った。また後半は、高松洋一講師による法廷記録簿と Ahkâm defteri に関する解説が行われ、続いて講読が行われた。最後には総合討論という形で、離婚に関して活発な議論が行われた。

上記の講読・討議は、報告者のように不勉強な者には難解な点も多く、内容についていくことに終始してしまった感があるが、大変勉強になるものであった。また、史料講読や討議のみならず、オスマン史研究者が一同に会することにより交流が生まれるという意味でも、本セミナーは大変意義のあるものと思われる。この機会がなければ会うことがかなわなかっただろう方にもお話を伺えたことは、今後の研究にも生かされるものである。このような機会を用意して下さった関係者の皆様には深く感謝申し上げたい。